

深刻度評価基準は、サイバー攻撃により発生した重要インフラサービス障害等が国民社会に与えた影響の深刻さを、NISCが評価・公表することにより、事業者、政府関係機関、国民等がその深刻さに関する共通の理解を得て、冷静かつ適切な対応を行えるようになることを目的とする取組。

今回、この取組の第一段階として、重要インフラ専門調査会において「発生したサービス障害が国民社会に与えた影響全体の深刻さ」を事後に評価する基準の試案が作成されたので、これをパブリックコメントの手續に付し、広く国民の皆様からの意見を募集する予定。

この取組は、目的の達成に向けて今後も引き続き重要インフラ専門調査会で実施していくこととしており、次の段階として、この基準を事案が発生した時点での国民社会への影響の予測的評価に活用し、政府の対応を判断する基準とすることや、官民の情報共有の体制や方法の基準とすることについて検討する予定。また、サイバー攻撃が国境を越えて発生することも踏まえ、国際整合性を図ることも併せて検討する予定。

表1 深刻度表

深刻度	重要インフラサービス障害等による国民社会への影響
レベル4 (危機)	サービスの持続性又はサービスに関する安全性に、著しく深刻な影響が発生
レベル3 (高)	サービスの持続性又はサービスに関する安全性に、大きな影響が発生
レベル2 (中)	サービスの持続性又はサービスに関する安全性に、何らかの影響が発生
レベル1 (低)	サービスの持続性又はサービスに関する安全性に、ほぼ影響なし
レベル0 (なし)	サービスの持続性又はサービスに関する安全性に、影響なし

表2 評価の観点及び評価指標

国民社会への影響	
評価の観点	評価指標
サービスの持続性への影響	提供支障（範囲・時間・代替性等） 同時多発性
サービスに関する安全性への影響 <small>（施設・設備の安全性を含む）</small>	人的・物的被害（人数・被害額等） 住民避難等（範囲等） 環境影響（原状回復費用・範囲等） 同時多発性
その他	サービスに対する信頼低下

表3 評価手法の概要

深刻度	国民社会への影響		
	サービスの持続性への影響	サービスに関する安全性への影響	その他（信頼低下）
レベル4 (危機)	↑	↑	↘
レベル3 (高)			
レベル2 (中)	↓	↓	↑
レベル1 (低)			
レベル0 (なし)	↓	↓	↓